

2020.12.21

 687
 重い病気の子ら笑顔に
 高松

 東京の美術館など おもちゃ寄贈
 高松

病気の子どもらに笑顔をお届けしようと、東京おもちゃ美術館(東京)と日本財団(同)が、全国の病院や施設など計約100カ所に子どもと家族らが一緒に遊べるオリジナルのおもちゃセットを贈る取り組みを展開している。県内でも18日、高松市の施設にセットが贈られ、施設を利用する子どもたちが五感をくすぐる多彩なおもちゃに触れ、楽しい時間を過ごした。

小児がんや心臓病、医療的ケアを必要とするなどの重い病気を抱えた子どもらに、「遊びに夢中になる」経験を味わってもらおうと、同美術館と同財団が共同でおもちゃセットを制作。子どもとその保護者ら



寄贈されたおもちゃで遊ぶ子どもら—高松市松島町

の声を基に選び、約100セットを用意した。

セットは、国内外からえりすぐった約50個の「詰め合わせ」。カラフルなままごと遊びの道具や縫いぐるみ、積み木など既製のおもちゃを中心に、重い病気の子どもを持つ母親と一緒に開発した手作りの布おもちゃなどが4個の木製ボックスに収められている。この

日、同市松島町の在宅療養ネットワーク(英早苗代表理事)であった贈呈式は、新型コロナウイルスの影響でビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」を使ってオンラインで開催。施設に届いたプレゼントに対し、利用者らはハンドベルを演奏して感謝の気持ちを伝えていた。